
情報教育分科会

I 研究のあゆみ

4月19日(水)	2023 年度名教組教研オリエンテーション (2023 年度名教組教育研究活動の進め方)	【 教育 館 】
5月 2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月中旬	研究内容の検討(1 次実践の検討)	【グループ実施】
6月中旬	研究内容の検討(2次実践の検討)	【グループ実施】
7月11日(火)	研究内容の検討 (これまでの実践の検討と研究のまとめ方)	【 教育 館 】
9月上旬	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【グループ実施】
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

「GIGAスクール構想」の実現によって、各学校におけるICT環境整備が急速に進んでいる。また、新学習指導要領総則においては、情報活用能力は言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。このような今日的な課題を踏まえ、ICTを活用して、子どもたちの情報活用能力を育てていく実践が報告された。

- ICTの特性を生かして、考えを共有したり、自分の思いをより分かりやすく伝えたりする実践
- 児童が自分に必要な情報を集め、判断しながら、物事を多面的・多角的に考えることができるようにする実践

III 今後に残された課題

- 子ども1人1台タブレット端末の導入により、授業のみならず学校生活の多様な場面で、教師・子どもたちがICTを活用して学習を進めている。各教科・領域、また多くの学年にわたり、ICTの特性を生かし、子どもたちが主体的に活動する手立てを追究する必要がある。また、子どもたちが自分に必要な情報や考えを集め、それらを表現する活動や、物事を多面的・多角的に考える中で、情報活用能力を高めていく手立てを追究する必要がある。
- 情報モラル教育について、子どもたちを取り巻くインターネット環境の現状を正確に把握した上で、制限を徹底するのではなく、正しく活用する力を高める必要がある。ICTのよき使い手になると同時に、よき社会の担い手になることをめざす「デジタルシティズンシップ」の考え方を取り入れた手立てを追究する必要がある。
- 子どもたちを取り巻く環境の変化が大きい中で、学校と家庭がどのように連携をして情報活用能力や情報モラルを育成していくとよいか、身近な子どもたちの実態を基に情報を共有することが必要である。